

| | |
|--|--|
| 会議の名称 | 令和4年度 第1回 西東京市農業振興計画推進委員会 |
| 開催日時 | 令和4年5月12日(木) 10時00分から11時00分まで |
| 開催場所 | 田無第二庁舎 4階会議室3 |
| 出席者 | (委員) 後藤委員長、保谷委員、中野委員、木村委員、小出委員、飯田委員、鎌田委員、大橋委員(代理出席) (事務局) 原島主幹、樋口係長、永井主査 |
| 議題 | (1) 第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】について (2) (仮称)第3次西東京市農業振興計画の策定について (3) その他 |
| 配布資料 | 資料1 西東京市農業振興計画推進委員会 委員名簿 資料2 西東京市農業振興計画推進委員会 各委員の意見 資料3 (仮称)第3次西東京市農業振興計画 策定スケジュール(案) 参考資料 第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】事業一覧 |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |
| <p>○事務局：</p> <p>ただいまより、令和4年度第1回西東京市農業振興計画推進委員会を開会させていただく。本日は、田中委員、本橋委員、村田委員、貫井委員より、欠席の連絡をいただいている。吉田委員代理の大橋委員が出席。また、人事異動に伴い、今回より新たな委員に参加いただいている。委嘱状は机上配布させていただいた。</p> <p>○事務局：</p> <p>昨年度の委員会が書面開催となったため、本日、委員の紹介をする。 続けて、任期の確認をする。令和2年9月29日から令和4年9月28日となる。 続けて、本委員会の委員長、副委員長の選出をする。前回、令和4年1月に書面で各委員からの意見をいただいた。その意見より、委員長は後藤委員、副委員長は田中委員という事で決定した。</p> <p>○事務局：</p> <p>それでは、委員長のもと、議事を進めていただく。</p> <p>○委員長：</p> <p>次に、資料の確認をお願いします。</p> <p>○事務局：</p> <p>(配布資料の確認。)</p> | |

○委員長：

次第にしたがって、議事を進める。議題（１）第２次西東京市農業振興計画【中間見直し】について事務局より説明を求める。

○事務局：

（資料２と参考資料より、第２次農業振興計画【中間見直し】各委員の意見と市の見解説明）

○委員長：

このことについて、意見、質問はあるか。

○委員：

果樹のボランティアをしているが、学校給食へキウイを提供しようとしたところ、アレルギーの兼ね合いがあるため断られたと聞いた。代替えの果物も選択できる等アレルギーに配慮しながらも市内産の果物を食する機会を設けられないか。

○事務局：

所管の学務課に情報提供する。

○委員：

援農ボランティアと農業者とのマッチングについて。農業者は即戦力を求めているように感じる。対価を支払うところや無償での対応もあると聞いているが人選の仕方がわからない。ボランティアの登録制度を構築していただきたい。

○事務局：

農のアカデミーでスキルアップし、農業者よりボランティア依頼があった際には、メンバーに声をかけている。また、東京都の青空塾の卒業生も登録しており、依頼があり、人員が集まらない場合は声をかけている。

○委員長：

今後どのようにしていくのか、マッチングの方法等も含めて検討が必要に思う。

直売農家では出荷・調整などの室内作業の比重も大きいので、高齢者であっても対応できるものがある。

○事務局：

ボランティア受入農業者のニーズを調査する等今後の推進委員会で検討していきたい。

○委員：

近隣の農園でボランティアを広く募集していたため、参加した。丁寧に対応していて農業者が大変ではないかと尋ねたところ、目的に地域コミュニティがあった。また、別の農業者に話を聞いたところ、雑草抜きばかりだと、ボランティアががっかりするのではと話していた。ボランティアの受け入れをするには、目的やメリットが必要では。個々の農業者の意見集約をお願いしたい。

○委員：

実際にボランティアの受け入れをしている。農家3軒で実施。公民館の講座から発生し、現在登録は70人。作業は1回2時間、ボランティア保険に加入。農業についての勉強会実施。毎月の定例会と役員会がある。最初から作業できる人はいない。農家自身がボランティアを育てる考えで半年から1年は対応しなければと考える。

○委員：

学校給食での地産地消について、他自治体での話を聞いた。農業者と学校の連携がとれているところがある。西東京市でも地産地消コーディネーターをおき、農業者と学校との橋渡しができるようになるとうい。他自治体の取組も参考になる。

○委員長：

学校給食の状況について事務局より説明をいただきたい。

○事務局：

学務課が担当。食材搬入業者の募集をかけ審査会を経て登録となる。現在農家は十数件登録。作付面積（搬入量）の兼ね合いもある。

学校ごとに献立を決めるが、栄養士会へ出向き市内産野菜のPRをしている。

○委員：

学校給食は安全性が保障されなくてはならない。

他自治体での様子、地産地消コーディネーター等のプロモーターが必要という意見もある。

出荷調整会議にJAが出向き、農産物の提供状況を栄養士に伝える等している。

JAでなくとも地域の状況が伝えられればよい。

○委員長：

学校給食は大きな課題であるため、引き続き対応してほしい。

他になれば、議題(2) (仮称)第3次西東京市農業振興計画の策定について事務局より説明

を求める。

○事務局：

(資料3)より(仮称)第3次西東京市農業振興計画の策定について説明

○委員長：

このことについて、意見、質問はあるか。

○委員：

事業者とはなにか。

○事務局：

計画策定の際に専門の事業者をいれ実施する。

国や都の施策、SDGS等も対応できるよう考える。

また、アンケート実施の際には児童の意見も取り入れるよう考えている。

○委員長：

可能であれば若い農業者や消費者の意見も取り入れられるとよいと思う。

令和4年度はアンケート中心で令和5年度は実質的な内容の検討となる。

○委員：

アンケートの対象者は。

○事務局：

第2次西東京市農業振興計画【中間見直し】の際には無作為で2,000人に実施した。今回も同等程度と考えている。

○委員：

市民農園利用者や農業者の意見も聞けるようであるし、児童の意見を聞けるのもよいと考える。

○委員長：

アンケートについては次回10月に検討、ヒアリングの内容については2月の委員会で検討となる。

他になければ、(3) その他について意見はあるか。

○委員：

2022年問題について。都市農地シンポジウムで特定認定に移行しているので大丈夫だと聞いたが、状況を知りたい。

○事務局：

正確な資料は今後の委員会で提示するが、83%から84%が特定生産緑地に移行している。

○委員長：

2割が生産緑地にのらないということだが、10年ごとに繰り返し申請をするということになるので、生産緑地は不安定化するのではないか。今後委員会でもどのように保全していくかが課題になると思われる。

○委員：

移行しない場合は制度を知ったうえで移行していないのか。

○事務局：

担当は都市計画課となるが、産業振興課も訪問同行し、制度の説明をしている。

○委員：

相続の問題がある。武蔵野市のように、市が買い取り市民農園と公園の機能があるものを設置できればよいが、難しいと思う。10年先がどうなるか分からない。

○委員：

市の買い取りの期間が短い。西東京市は立地もよいので、宅地化が進むと感じる。緑を残していきたいが、相続の問題を聞くと農家の事情もあると感じる。

○委員：

東大農場演習林に農協が移転したりすることにより、場所が遠くなり、農業者の農協離れになるかもしれない。直売所も新しくできるが、多くの農家が参加しないと成り立たない。直売所も休みが1日と聞いているので、毎日対応できるかという思いもある。農作業も毎日なので、ボランティアの力も必要になる。ボランティアの活用も課題。

若い農業者が少ない。若くても40代、70歳以上でも毎日働いている状況。

○委員長：

ボランティアは労働力の提供だけでなくいろいろな意味で農家を支えているとも聞いている。

ボランティアと農家がどのようなつながりをつくるか課題と思われる。
他に意見がないので最後に、事務局にお願いする。

○事務局：

新型コロナウイルス感染症の影響で、参集の会議が任期中今回のみとなった。
書面開催の会議の協力もありがとうございました。
任期中の会議は今回で最後となるが、引き続きよろしく申し上げます。

○委員長：

以上で、農業振興計画推進委員会を終了する。

《閉会》